

令和3年度 事務事業評価シート（1）

[令和2年度事務事業]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	重度障害者入院時コミュニケーション支援事業				事業番号	011-145
担当部署名	健康福祉	局	障害福祉	部	障害福祉サービス	課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画 2025	施策 との 関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉～Well-being～	施策	(5) 障害者が生きがいを持って心豊かに暮らせる社会の実現
			有	取組の方向性	②障害者の暮らしの場の確保		
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—		
		無	現状値	—		目標値	—
2	堺市SDGs 未来都市 計画	施策 との 関連	有・無	ゴール	ゴール(10)人や国々の不平等をなくそう	ターゲット	10.2
			有	取組	障害者児及びその家族に対する支援		
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—		
		無	現状値	—		目標値	—
2	関連計画	第4次堺市障害者長期計画、第5期堺市障害福祉計画					
3	事業開始年度	平成 22 年度		点検年度	令和 7 年度		
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	障害者総合支援法第77条、堺市重度障害者入院時コミュニケーション支援費の支給に関する要綱					

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁、各区
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	重度の身体障害者・知的障害者・精神障害者・障害児
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	重度の障害のため意思疎通に支援が必要な方が入院した場合に医療従事者との円滑な意思疎通の仲介を図り、安心して医療を受けられる環境を確保する。
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など	意思疎通に支援が必要な重度障害者（児）が医療機関（精神科を除く。）に入院した場合に、普段利用している指定障害福祉サービス事業者（訪問系）や登録している移動支援事業者から、ヘルパー又はガイドヘルパーをコミュニケーション支援員として派遣し、医療従事者との意思疎通の仲介を行う。
9	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載	
10	主な支出先（委託・補助金・負担金等）	
11	公民連携・協働事業	

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位	実績		目標	目標 点検年度
			令和元年度	令和2年度		
			目標値	—		
	サービス提供回数	回	実績値	715	53	—
			達成率	—	—	—
	当該指標を選定した理由	事業の全体量を把握するのに最適な指標のため。				
	目標値の設定根拠・算出方法	サービス提供回数（目標値を設定していないのは、本事業は要件を充足すれば対象者へサービスを提供する制度であり、その事業の特性上、数値化した目標の設定は困難であるため。）				
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位	実績		目標	目標 点検年度
			令和元年度	令和2年度		
			目標値	—		
	利用者数	人	実績値	66	7	—
			達成率	—	—	—
	当該指標を選定した理由	事業の全体量を把握するのに最適な指標のため。				
	目標値の設定根拠・算出方法	延べ利用者数（目標値を設定していないのは、本事業は要件を充足すれば対象者へサービスを提供する制度であり、その事業の特性上、数値化した目標の設定は困難であるため。）				

令和3年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	重度障害者入院時コミュニケーション支援事業	事業番号	011-145
-------	-----------------------	------	---------

III. 投入量

事業コスト

(単位：千円)

13	財 源 内 訳	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度		令和3年度
			決算	決算	予算	決算	予算
		事業費 (a)	3,933	2,876	3,195	192	2,876
	国支出金						
	府支出金						
	市債						
	その他 ()						
	受益者負担金(使用料、手数料等)						
	一般財源	3,933	2,876	3,195	192	2,876	
14	人件費 (b)		820	810	820	820	820
15	年間経費(c)=(a)+(b)		4,753	3,686	4,015	1,012	3,696

事業費の内訳

(単位：千円)

16	事業 費 内 訳	項目	年度		事業費	うち 一般財源	項目	年度		事業費	うち 一般財源
			R2	決算				R2	決算		
		重度障害者入院時コミュニケーション事業	R3	予算	2,876	2,876		R3	予算		
			R2	決算				R2	決算		
			R3	予算				R3	予算		
			R2	決算				R2	決算		
			R3	予算				R3	予算		
			R2	決算				R2	決算		
			R3	予算				R3	予算		
			R2	決算				R2	決算		
			R3	予算				R3	予算		
			R2	決算				R2	決算		
			R3	予算				R3	予算		

IV. 事業の効率性

単位当たり経費

17		区分	単位	令和元年度	令和2年度
		① サービス提供回数	件	715	53
		② 上記①にかかる年間経費	千円	2,876	192
		③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)		4,022	3,623
		備考（算出についての説明等）			

V. 評価

費用対効果に係る所見

18	本事業は、入院時に障害者(児)と医療従事者の意思疎通を支援するものであり、障害者（児）が入院時に適切な医療を受けるために必要な支援である。費用については、自立支援給付の居宅介護の報酬と同水準であり、当該事業に係る費用は妥当であると考える。なお、令和2年度は、コロナウィルス感染症の影響により、利用回数が激減している。また1回当たりの利用時間も減少しているため、単位当たりの経費も下がっている。
	KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	本事業は、障害者（児）と医療従事者との意思疎通を支援するものであり、入院時において適切な医療を受けることを通じて、障害者（児）及びその家族への支援に寄与している。